

株式 MEMO	
事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	3月31日、9月30日
公告掲載方法	電子公告の方法により行います。 ただし、電子公告によることができない事故 その他やむを得ない場合が生じた場合には、 日本経済新聞に掲載して行います。 公告掲載URL:http://www.ina-research.co.jp/
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 ● 電話:0120-244-479(本店証券代行部) (24時間受付:自動音声案内) ● URL: http://www.tr.mufg.jp/daikou/ なお、株券保管振替制度をご利用の株主様は、 お取引口座のある証券会社にご照会下さい。
同取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
名義書換手数料	無料
新券交付手数料	無料

当社のホームページでも
詳しい情報を同時に開示しております。
ぜひ併せてご覧ください。

http://www.ina-research.co.jp/



株式会社 イナリサーチ
〒399-4501 長野県伊那市西箕輪2148番地188
TEL 0265-72-6616 FAX 0265-72-6657

株式会社 イナリサーチ
証券コード：2176

株主通信

2011年3月期第2四半期 (2010年4月1日～2010年9月30日)

■売上高
(前年同四半期比) 16.9%増
1,846百万円

■経常利益
(前年同四半期は経常利益△24百万円)
△131百万円

■四半期純利益
(前年同四半期は四半期純利益△25百万円)
△99百万円

■1株当たり四半期純利益
△3,330円40銭

注記事項
※本報告書は11月9日発表の第2四半期決算短信の数値、文章を基に作成しております。その後
に発表される可能性がある訂正情報や業績予想の修正情報や決算の詳細につきましては金融
庁EDINET、当社ホームページ掲載資料にてご確認ください。
※本資料に記載されている業績見直し等の将来に関する記述は、当社が現時点において入手可
能な情報に基づいて作成しておりますが、実際の業績等は様々な要因により予想と異なる結果
となる場合があります。

株主のみなさまへ



代表取締役社長

北川 淳司

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び
申し上げます。平素は格別のご高配とご支援を賜り、誠にありがた
く厚く御礼申し上げます。
2011年3月期第2四半期を終了いたしましたので、ここにご報
告いたします。

当第2四半期の業績は、売上高は1,846百万円(前年同四半期
比16.9%増)、経常損失は131百万円(前年同四半期は経常損
失24百万円)、四半期純損失は99百万円(前年同四半期は四半
期純損失25百万円)、1株あたり四半期純損失は3,330円40銭
となりました。

売上高は環境事業でかねて受注済みであった製薬企業研究所
向け動物飼育機材の納品が開始したことから前年を上回ることが
出来ましたが、利益面では主力の非臨床試験事業の売上高低迷
等により赤字となりました。しかしながら大手製薬企業の新薬開発
に対する研究開発費が増加傾向であること、また新薬開発初期段
階の基礎研究開発への投資が回復してきていることから、当社は
短期的な受注動向に捉われることなく、試験施設・設備の拡充、
優秀な人材の確保・育成に取り組んでおります。

当社は製薬企業のニーズに応えると共に、医薬品開発支援を
通じて社会に貢献すべく、さらなる事業領域の拡大・充実に取組
んでまいります。今後とも一層のご支援とご鞭撻を賜りますよう、
心よりお願い申し上げます。

2010年12月

季節変動について

当社顧客製薬企業の予算執行および予算計上の都合上、第4四半期に
売上が集中する傾向がございます。また第1および第3四半期については
終了する試験数が少なく、例年売上が落ち込む傾向がございます。

事業別の概況

■ 非臨床試験事業

当事業の売上高は1,440百万円、営業損失は36百万円となりました。

医薬品業界では、いわゆる「2010年問題」や医療費抑制政策の影響等から、新薬の開発を加速するなどの対応策が急務となっております。そのため大手製薬企業では、パイプライン（有望な新薬の種）への投資を最終段階にある試験に集中させる傾向が引続き見られるとともに、海外の新薬開発企業の買収等、新たな収益源の早期確保を目指した動きが顕著となり、従来にも増して競争が激化しております。

製薬企業の開発動向の変化や円高による海外CRO（受託試験研究機関:Contract Research Organization）を巻き込んだ受注競争の激化に伴う受注価格の低下と稼働状況の低迷により、個々の試験の利益率が低下いたしました。

■ 臨床試験事業

当事業においては、試験が実施されていますが、まだ売上には至らず設備投資が先行し、売上高は227千円、営業損失は23百万円となりました。

■ 環境事業

当事業においては、製薬企業研究所向け動物飼育機材等の納品が開始したことから、売上高は大きく伸びましたが、利益率の低い製品の納品が先行したことにより、売上高は405百万円、営業損失は35百万円となりました。

業績の予想について

最近の業績動向を踏まえ、平成22年5月11日に公表した業績予想を平成22年11月4日に下記の通り修正いたしました。

■ 2011年3月期業績予想

売上高 3,918百万円

営業利益 91百万円

経常利益 38百万円

当期純利益 3百万円

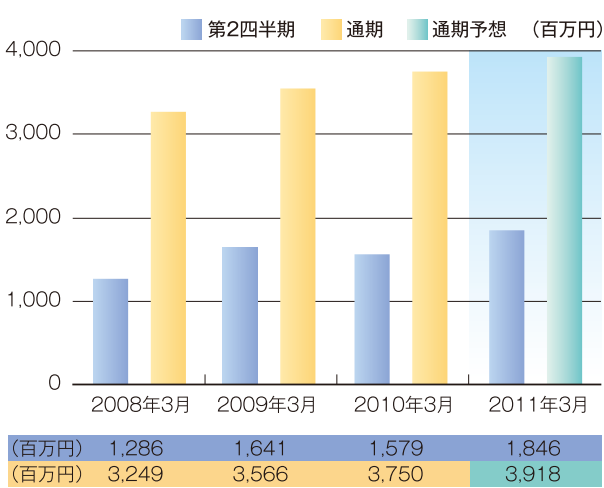
1株当たり当期純利益 109円72銭

修正理由:

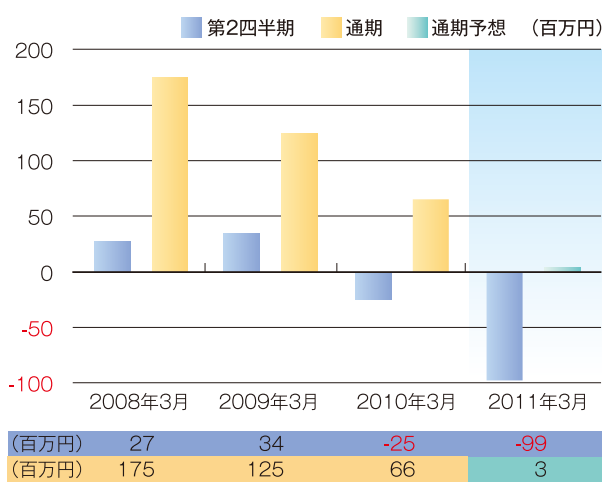
非臨床試験事業については、業績の好調な一部製薬企業を中心に緩やかながら足元の受注も回復しつつあり、当社の今期末の受注残高も前期末を上回るものと見込まれております。また欧州支所は海外からの受注拡大に向け、営業活動を本格化しております。しかしながら、前期から今期上期にかけての受注低迷の影響は色濃く残り、今期下期の受注回復による売上・利益への貢献も限られたものになることから、前回発表した業績予想を下回る見込みとなりました。

業績の推移

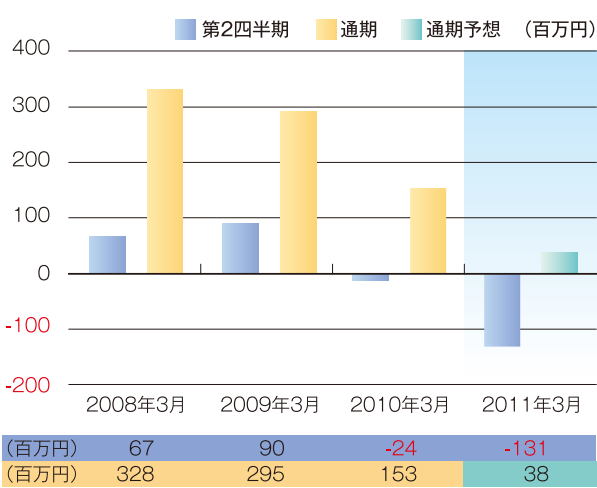
■ 売上高



■ 四半期(当期)純利益



■ 経常利益



■ 1株当たり四半期(当期)純利益

